

1.

涙腺は眼球の（上外、上内、下外、下内）方にあり鼻涙管は（上、中、下）鼻道に開口している。

水晶体が濁るのは（白、緑）内障である。

下直筋は（動眼）神経支配であり、眼球を（上外、上内、下外、下内）方へ動かす。

毛様体・虹彩は（脈絡）膜の前方部へ延長した特殊な構造である。

対光反射の中継核は（視蓋前）核である。

近見反射での寄り眼は（動眼）核が中継核であり、両側の（内側）筋が収縮する。

近見反射での縮瞳と水晶体の膨らみは（動眼）核が中継核であり、（毛様体）神経節を經由して起こる。

網膜横斑部の視細胞は色覚を感知する（錐）体のみで、視細胞と視神経節細胞の比が（1 : 1 ; 1 : 10 ; 1 : 100 ; 1 : 1000）である。

網膜辺縁部の視細胞は明暗を感知する（棒）体のみで、視細胞と視神経節細胞の比が（1 : 1 ; 1 : 10 ; 1 : 100 ; 1 : 1000）である。

2.

燕下

耳管咽頭口は通常は閉じていて、（ ）時に開く。

鼓室には、3つの耳小骨がある。鼓膜に接する（ ）骨、キヌタ骨、内耳に振動を伝える（ ）骨からなる。
ツチ アブミ

耳小骨は、鼓膜の振動を（2 ; 5 ; 10 ; 20）倍に増幅し、（ ）窓の内側の外リンパに振動を伝える。
前庭

蝸牛管には特殊な聴覚装置である（ ）器があり、聴覚の受容器細胞である有毛細胞が存在する。
コルチ

（高い、低い）周波数の音には蝸牛頂の有毛細胞が反応する。

ヒトの可聴域はおよそ（20）Hz から（ ）Hz である。
20,000

3.

鼻粘膜嗅部の嗅細胞は、嗅覚受容器（細胞、ニューロン）であり、舌の味蕾の味細胞は、味覚受容器（細胞、ニューロン）である。

味覚を脳へ伝える末梢神経は、顔面神経に属する（鼓索）神経（舌の前2/3を担当）と（舌咽）神経の舌枝（舌の後1/3を担当）であり、脳内の中継核である（孤束）核（吻側1/3）・橋味覚野・視床の（ ）を経て、味覚情報は脳皮質味覚野へ伝えられる。

内側腹側核